「大谷塾ゼミ通信」

～十勝を世界一の地域に～

●「高校生がとかちの力に」

「十勝のために、何かできることはないか、地域活性化に携わる活動ができないかできないか・・・」
そんな思いを胸に本活動はスタートしました。高校生という立場から、「人のために」という思いを持って取り組み、生徒たちが十勝の魅力を発信していきます。

今回は**帯広百年記念館**にお伺いしました。

・・・はじめに帯広百年記念館とは・・・

帯広の開拓100年を記念して昭和57年(1982)創立。
十勝の歴史・産業・自然を紹介する常設展示室をはじめとし、自然観察会や講座などのプログラムの開催をしている。また陶芸講座教室など「ものづくり」も体験することができる。

「マンモスの展示」
https://cdn-ak.f.st-hatena.com/images/fotolife/k/kitalog634/20200411/20200411102317.jpg

１.十勝の始まり～依田勉三を中心とした晩成社の活躍～

通常、北海道の開拓は屯田兵により行われる。しかし、十勝の場合は依田勉三を中心とした晩成社を中心として行われた。

※依田勉三はマルセイバターサンドのラベルの発案者でもある。

～晩成社の開拓～

良質な肉の牛、豚などを育てることに成功。

↓

十勝で牛肉屋さんを経営

↓

しかし十勝の人口が少なく利益が出ず

↓

函館に移転(函館には外国人が多かったため)

＊ここでの課題＊

・函館まで牛を運ぶのに時間とお金がかかる

→利益を出しづらい状況

開拓するだけではない、売る難しさをここで痛感した

このほかにも晩成社はバター工場、牧場、畜産会社の設立など当時はほとんど利益が出ず、経営が苦しかった。しかし、

当時作られたものが今の十勝に根付き、現在の十勝の主要産業

となっている。目先のことだけでなく先を見据えて、十勝を発展させた依田勉三には感謝しかない。

・ばんえいの普及

当時は馬を使って開拓を進めていた

ばん馬とは大きさが**大きければ大きいほど荷物を運べる**

↑そのため、フランスから強い馬を連れてくることもあった

その結果十勝の馬が全国で一番良いと言われるほど。

→馬は開拓と密接に関わっている。

２.十勝の経済発展～キーワードは豆と監獄～

・十勝監獄の存在

1895(明治28)年に十勝監獄ができる

※当時の十勝監獄は本州で悪を犯した人々が主に収容されていた。
その数、約1500人。
十勝監獄に収容されている人々に
道路や学校など開拓する役割を与えた

そのため、囚人とそこで働く人達に食を提供する商人が必要

十勝監獄は経済発展の原点

・農業

大正時代に始まった第一次世界大戦により農作物価格が上昇(大戦前の約5倍)。広大な豆の畑作地帯のある十勝はそれにより大きく潤いだす。しかし豆は価格が不安定なため、十勝ではビート→麦→豆のローテーションで栽培を行いそれにより、1年を通じて農業で生計を立てられるようになった。

～豆の発展～

↓ 農協の誕生
同じ規格、品質のものを
一気に運ぶため

↓ 帯広信用銀行
経済が発展したことで
さらなる発展を後押し

↓ 電気
商業が発展し大きな会社が
大きな会社が集まるように

帯広百年記念館さん、この度は貴重なお話をありがとうございました！